

寺内廃寺跡(熊谷市) 寺内廃寺は八世紀に創建が始まった伽藍施設を備えた本格的な寺院とされる

「アソシエイツゴルフ場」のしたの○印の個所が寺内廃寺跡



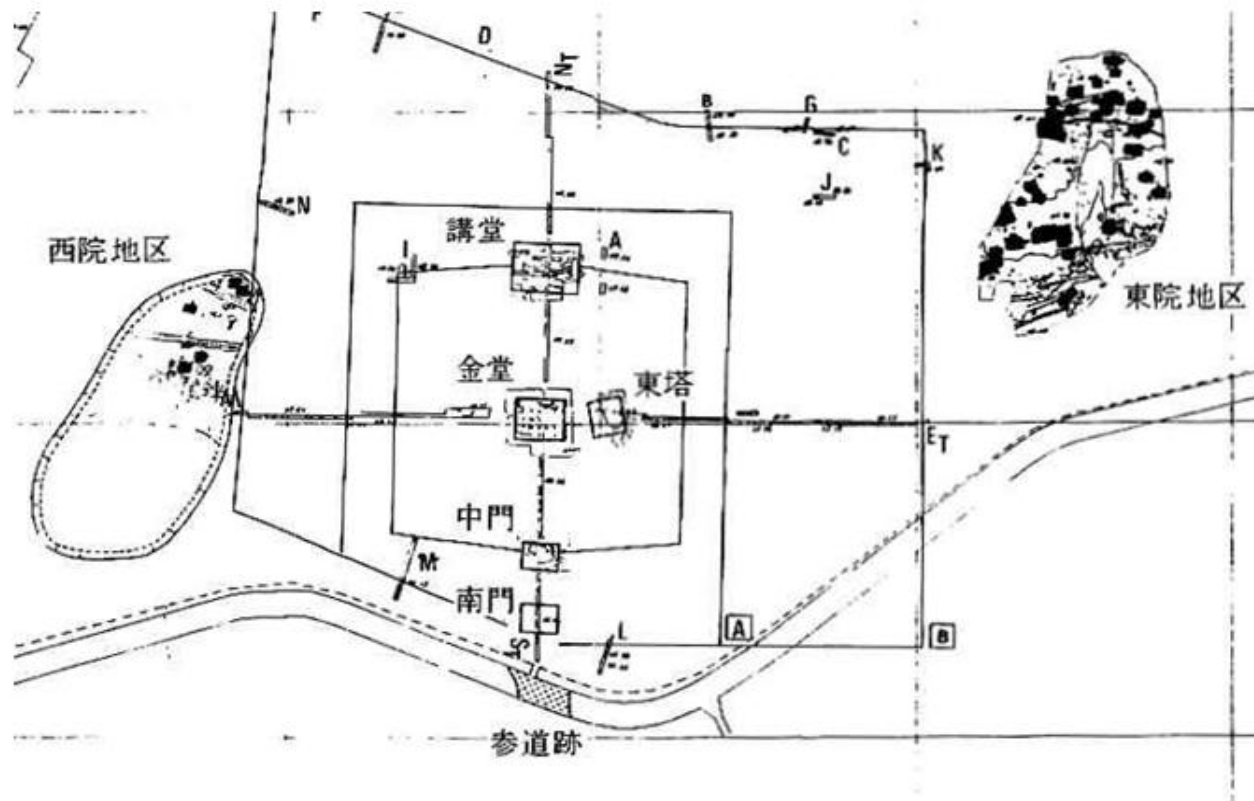
インターネットより

○印個所の拡大図



インターネットより

点線がゴルフ場のネットフェンス位置



寺内廢寺跡図

インターネットより



伽藍建物群の航空写真 熊谷市教育委員会写真提供

右から中門・金堂・講堂。金堂の東側（画面上方）に塔が³位置する。

ゴルフ場の右下位置(フェンス内がゴルフ場)



車の位置あたりが寺内廃寺跡図の「参道跡」部分



反対方向から見る



この中に寺内廃寺があった







「参道跡」あたり





この奥に寺内廃寺があった





武蔵寺内廃寺塔跡 1



インターネットより

武蔵寺内廃寺塔跡 2



インターネットより

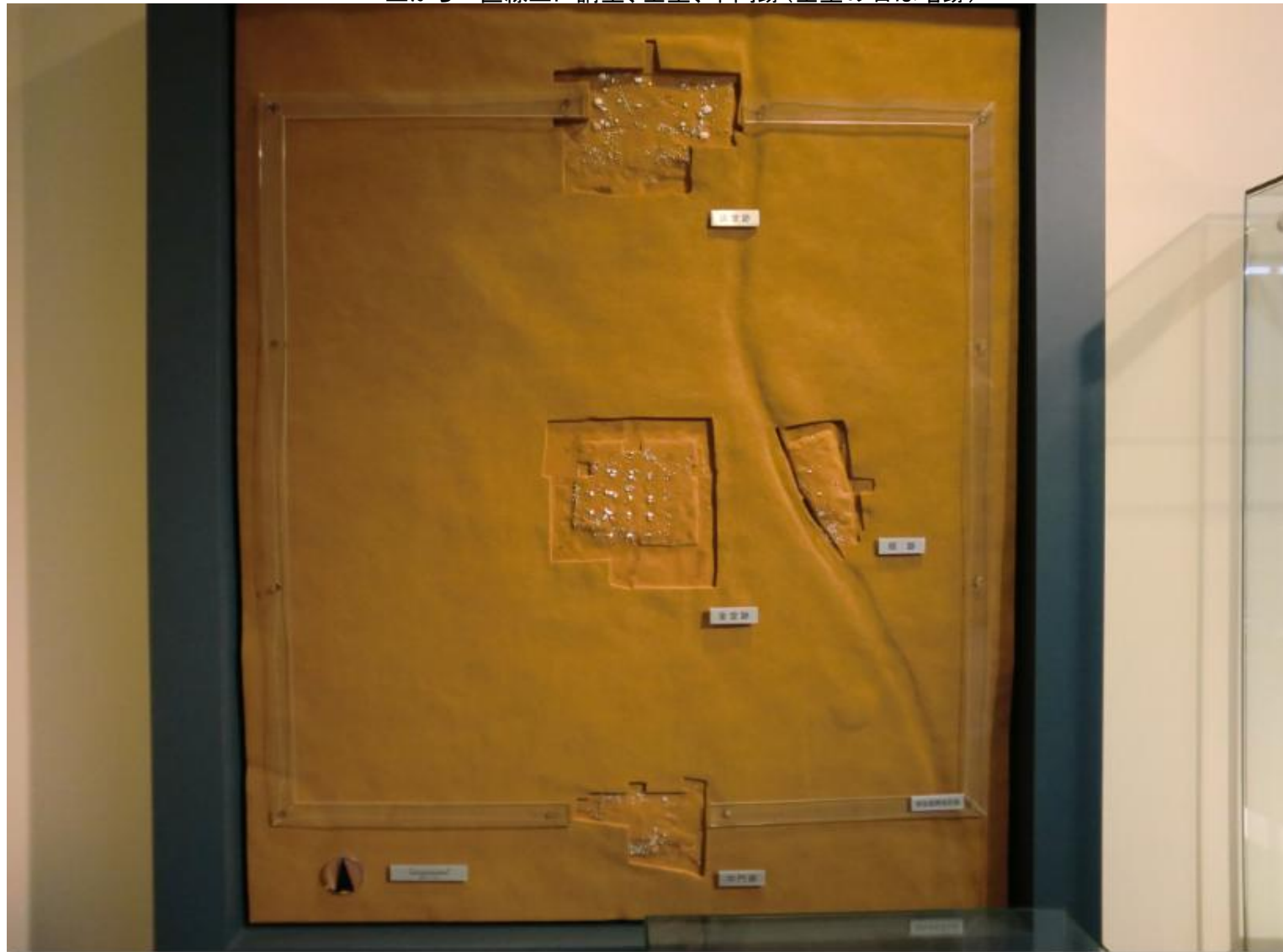
寺内廃寺の資料が展示されている熊谷市立江南文化財センター







上から一直線上に講堂、金堂、中門跡(金堂の右は塔跡)





金堂と三重塔の復元模型



塔は一辺が12mの基壇が発掘され、高さ15メートルと想定

インターネットより



インターネットより



寺内廃寺出土塑像頭部（十一面観音像化仏）・参考図

この塑像頭部は、十一面観音菩薩の頭上にある小仏頭（化仏）と考えられるもので、寺内廃寺（花寺）に所在した仏像を具体的に想定する資料である。

塑像は憤怒相（目を見開く表現など）をしているところから化仏の中でも「狗牙上出面」（または「瞋怒面」）であろう。参考図は化仏を詳細に表現している。国宝 絹本着色十一面観音像（奈良国立博物館蔵）である。



右 寺内廃寺出土塑像





寺内鹿寺跡 正土表者土葬
(奈良時代・平安時代) 千代・東照宮

寺内鹿寺跡から出土した遺物土葬は、寺という空間の中で使用された鉢、碗などに所蔵や使用用途などが具体的に示されていた。
観・多・千代などは、仏名や仏教行事を、上院・東院・寺・大家などは、寺院内での役割を、花寺、石井寺などは寺内鹿寺跡の名前を示している。

観音堂・新正堂
観音堂
新正堂

寺内廃寺跡 出土墨書土器

(奈良時代・平安時代) 千代・柴地内

寺内廃寺跡から出土した墨書土器は、寺という空間の中で使用された坏、椀などに所属や使用用法などが具体的に示されていた。

観・多・千油などは、仏名や仏教行事を、上院・東院・寺・大家などは、寺院内での所属を、花寺、石井寺などは寺内廃寺跡の名称を示している。



止5/10調査.(C)Yahoo Japan.(C)ZENRIN

利用規約 (C)Yahoo Jap





<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/terauti/index.htm>